

2023年2月期 決算期（2022年3月1日～2023年2月28日）

決算説明資料



6月24日～8月31日 帝国劇場公演

2023年4月13日(木)



2023年2月期 通期 営業概況

	2022年2月期 (2021年3月～2022年2月)	2023年2月期 (2022年3月～2023年2月)	前期比	増減率
営 業 収 入	228,367百万円	244,295百万円	15,927百万円	7.0% ↗
営 業 利 益	39,948百万円	44,880百万円	4,931百万円	12.3% ↗
経 常 利 益	42,790百万円	47,815百万円	5,024百万円	11.7% ↗
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	29,568百万円	33,430百万円	3,862百万円	13.1% ↗

※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較しています。
 なお、収益認識会計基準適用の影響額は、当連結会計年度の営業収入は13,907百万円減少し、営業原価は10,692百万円減少し、販売費及び一般管理費は3,450百万円減少し、営業利益は235百万円増加し、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ227百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は1,250百万円減少しております。

2023年2月期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と3カ年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」とから構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を2022年4月に策定し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組んでおります。詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、感染拡大の落ち着きに伴って行動制限の緩和等の流れから回復が進んでいるものの、当第4四半期においても継続しております。

演劇事業においても、一部演目において、公演関係者の感染により公演中止が発生しましたが、業績へ及ぼす影響は縮小しております。

【第4四半期決算の概況】

映画営業事業において、続映中の『すずめの戸締まり』の興行収入140億円を超える大ヒットや、『ワールドツアー上映「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ』『ラーゲリより愛を込めて』等のヒットに恵まれ、増収増益。（『すずめの戸締まり』の興行収入は2023年3月末時点で143.6億円）

映画興行事業において、緊急事態宣言の発出を受けた前年同期に比べ、事業環境が改善したことに加え、上記の当社配給作品や『THE FIRST SLAM DUNK』等の大ヒットが業績に寄与し、増収増益。

映像事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」等のTOHO animation作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、動画配信等の多面的展開により好調に推移したが、好調だった前年に及ばず減収減益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

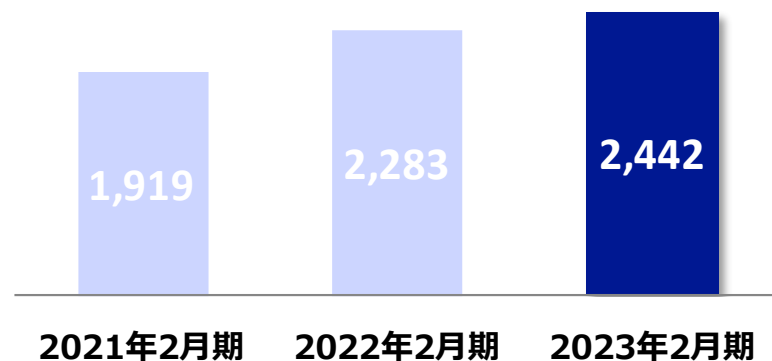
演劇事業では、映画でも大ヒットを記録している人気漫画の初の舞台化『キングダム』等が盛況に推移し、公演が一部中止となった演目があったが、増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において保有物件が堅調に稼働したことや、道路事業も堅調な成績を収めたことにより、全体では増収増益。

※新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大規模施設に対する協力金等を「助成金収入」として特別利益に計上しております。

営業概況3カ年比較

営業収入



営業利益



経常利益



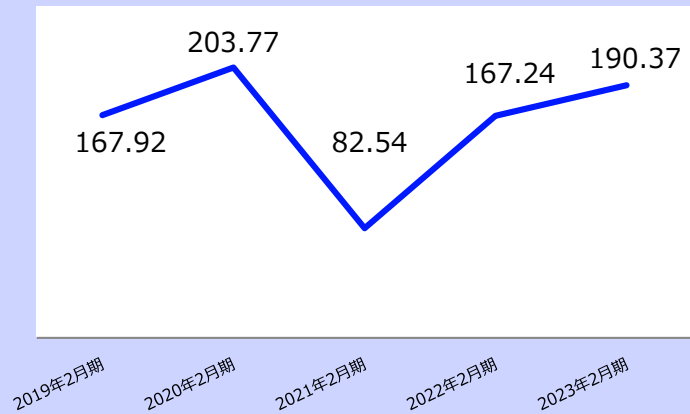
親会社株主に帰属する当期純利益



(単位：億円)

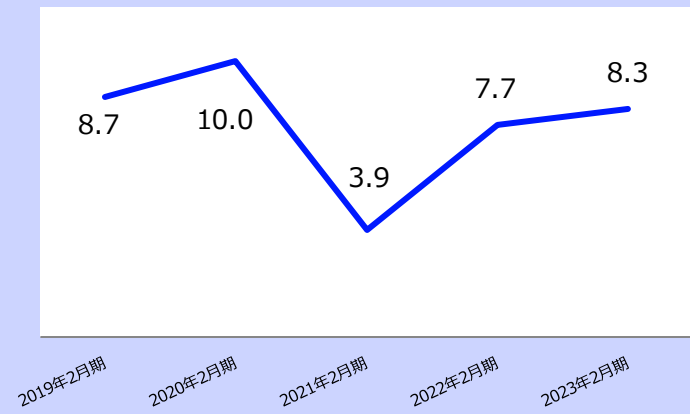
経営指標の推移

1株当たり当期純利益



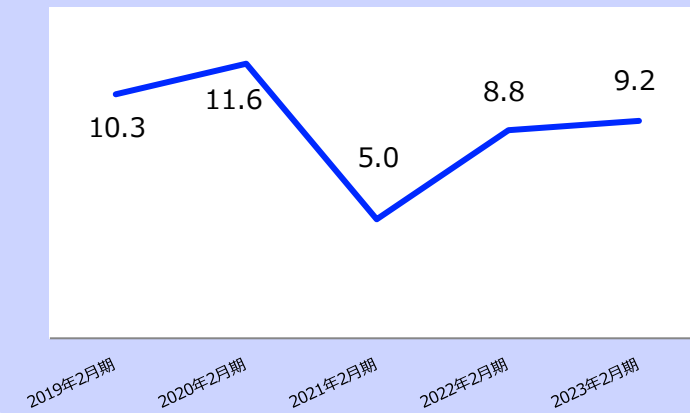
(単位: 円)

自己資本 当期純利益率
(ROE)



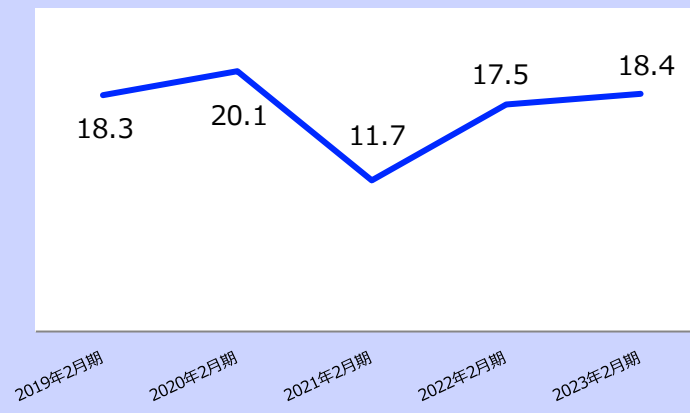
(単位: %)

総資産 経常利益率
(ROA)



(単位: %)

売上高 営業利益率



(単位: %)

セグメント別業績一覧

営 業 収 入				営 業 利 益		
2022年2月期 (2021年3月～2022年2月)		2023年2月期 (2022年3月～2023年2月)	増減率	2022年2月期 (2021年3月～2022年2月)	2023年2月期 (2022年3月～2023年2月)	増減率
①映画事業	144,781	158,015	9.1% ↗	24,894	29,075	16.8% ↗
映画営業	40,439	40,903	1.1% ↗	11,507	13,532	17.6% ↗
映画興行	57,673	71,054	23.2% ↗	1,678	7,394	340.6% ↗
映像事業	46,667	46,058	-1.3% ↘	11,708	8,148	-30.4% ↘
②演劇事業	15,157	18,202	20.1% ↗	2,472	2,774	12.2% ↗
③不動産事業	65,832	66,913	1.6% ↗	16,657	17,572	5.5% ↗
不動産賃貸	27,155	28,022	3.2% ↗	11,733	11,554	-1.5% ↘
道路事業	28,977	28,907	-0.2% ↘	4,207	5,092	21.0% ↗
不動産保守・管理	9,699	9,983	2.9% ↗	715	926	29.4% ↗
④その他事業	2,596	1,163	-55.2% ↘	▲ 90	130	—

※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識適用前の前期数値を用いて比較。（単位：百万円）
 なお、収益認識会計基準適用の影響額は、当連結会計年度の「映画事業」の売上高は12,202百万円減少、セグメント利益は236百万円増加し、「不動産事業」の売上高は731百万円減少、セグメント利益への影響はありません。

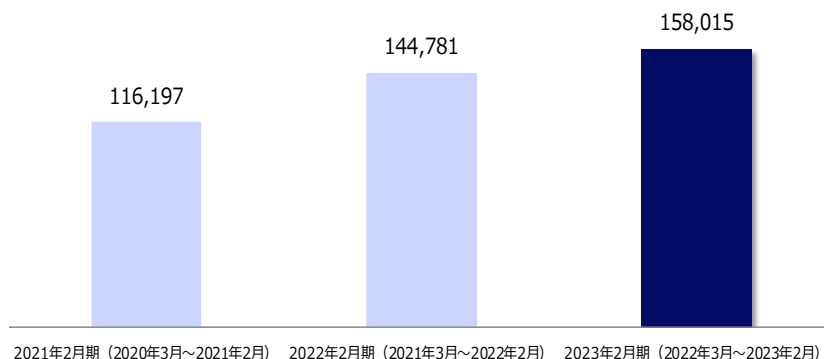
セグメント別業績（四半期別）

営 業 収 入					営 業 利 益			
	第1四半期 (2022年3月～5月)	第2四半期 (2022年6月～8月)	第3四半期 (2022年9月～11月)	第4四半期 (2022年12月～2月)	第1四半期 (2022年3月～5月)	第2四半期 (2022年6月～8月)	第3四半期 (2022年9月～11月)	第4四半期 (2022年12月～2月)
①映画事業	39,528	38,670	37,304	42,513	9,230	8,015	5,774	6,056
映画営業	11,727	8,240	9,186	11,750	4,800	2,957	3,148	2,627
映画興行	17,339	21,038	14,389	18,288	2,089	3,242	529	1,534
映像事業	10,461	9,392	13,728	12,477	2,340	1,814	2,096	1,898
②演劇事業	4,561	3,787	5,527	4,327	737	364	1,131	542
③不動産事業	17,477	15,756	16,247	17,433	5,193	4,328	4,187	3,864
不動産賃貸	6,939	6,959	7,037	7,087	3,027	3,045	2,971	2,511
道路事業	8,048	6,557	6,477	7,825	1,942	1,082	953	1,115
不動産保守・管理	2,489	2,239	2,732	2,523	223	200	262	241
④その他事業	297	273	305	288	57	44	62	▲ 33
合計	61,865	58,487	59,385	64,558	14,273	11,710	9,882	9,015

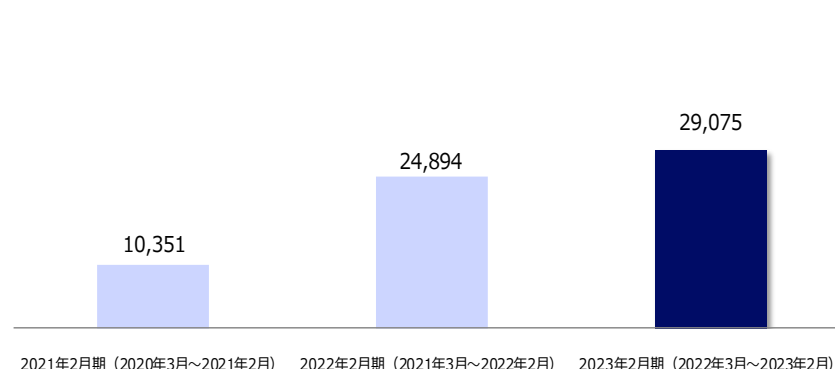
(単位:百万円)

セグメント別業績【映画事業】

営業収入



営業利益



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。過去2年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、第3四半期から続映中の『すずめの戸締まり』が興行収入140億円を超える大ヒットを記録したことや、『ワールドツアー上映「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ』(同40.3億円)、『ラーゲリより愛を込めて』(同26.3億円)、『Dr.コトー診療所』(同24.1億円)等のヒットがあり好調に推移した結果、増収増益。
(興行収入は2023年3月末時点)
- 映画興行事業では、前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記の当社配給作品や『THE FIRST SLAM DUNK』(東映)の高稼働等により、増収増益。
- 映像事業では、アニメ製作事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」等、TOHO animation作品の商品化権、動画配信等の各種配分金収入が好調に推移。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて『すずめの戸締まり』の売り上げが、引き続き好調に推移。ODS事業では、アニメ三部作「特『刀剣乱舞-花丸-』～雪月華～」や、『BLUE GIANT』を提供。映像事業全体として、前年上期の『ウマ娘 プリティーダービー Season 2』のパッケージセールスの反動が大きく、減収減益。
(第3四半期に、昨年10月㈱エイド・ディーシーを子会社化した際に発生したのれん(約11億円)を一括償却しました。)

当期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
すずめの戸締まり	11月11日	143.6
名探偵コナン ハロウィンの花嫁	4月15日	97.8
キングダム2 遥かなる大地へ	7月15日	51.6
シン・ウルトラマン	5月13日	44.4
ワールドツアー上映「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ	2月3日	40.3
沈黙のパレード	9月16日	30.0
映画ドラえもん のび太の宇宙小戦争 2021	3月4日	26.9
ラーゲリより愛を込めて	12月9日	26.3
Dr.コトー診療所	12月16日	24.1
映画クレヨンしんちゃん もののけニンジャ珍風伝	4月22日	20.4
映画「おそ松さん」	3月25日	16.7
今夜、世界からこの恋が消えても	7月29日	15.3
イチケイのカラス	1月13日	10.6

東宝東和(株)等配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
トップガン マーヴェリック	5月27日	137.0
ジュラシック・ワールド／新たなる支配者	7月29日	63.2
ミニオンズ フィーバー	7月15日	44.4
SING／ネクスト・ステージ	3月18日	33.1

（興行収入は2023年3月末日時点 単位：億円）

当期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：円)

	2022年2月期	2023年2月期	前期比
3月	10,122,378,904	4,404,406,530	43.5%
4月	8,940,877,900	7,382,498,300	82.6%
5月	3,087,028,450	8,719,197,550	282.4%
1Q	22,150,285,254	20,506,102,380	92.6%
6月	2,990,184,400	2,616,709,220	87.5%
7月	6,968,430,230	4,161,316,842	59.7%
8月	7,645,189,650	4,150,819,820	54.3%
2Q	17,603,804,280	10,928,845,882	62.1%
9月	4,311,624,310	3,302,171,200	76.6%
10月	2,933,130,920	2,640,663,750	90.0%
11月	2,122,276,010	7,239,618,260	341.1%
3Q	9,367,031,240	13,182,453,210	140.7%
12月	7,019,611,040	7,451,701,458	94.2%
1月	7,296,585,476	5,911,682,410	123.4%
2月	3,468,155,098	5,078,307,260	68.3%
4Q	17,784,351,614	18,441,691,128	103.7%
通期	66,905,472,388	63,059,092,600	94.3%

※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

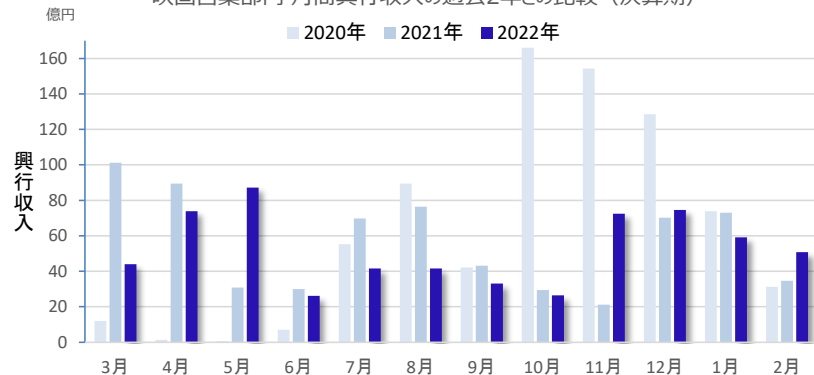
映画興行事業 興行収入推移

(単位：円)

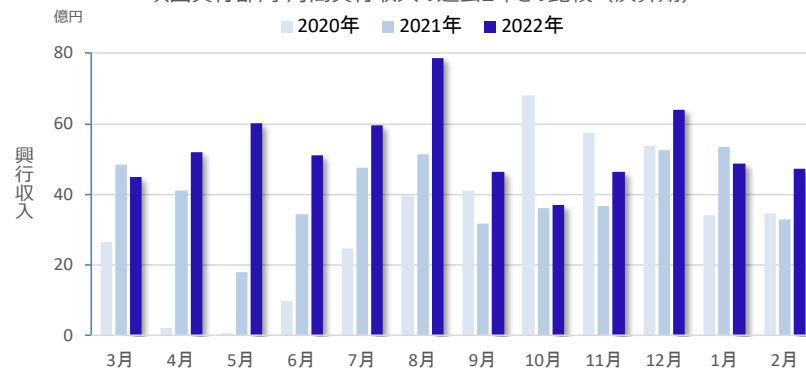
	2022年2月期	2023年2月期	前期比
3月	4,842,139,643	4,494,828,738	92.8%
4月	4,099,777,614	5,203,206,024	126.9%
5月	1,775,416,231	6,004,059,601	338.2%
1Q	10,717,333,488	15,702,094,363	146.5%
6月	3,440,625,871	5,092,951,293	148.0%
7月	4,741,518,384	5,949,442,860	125.5%
8月	5,130,905,686	7,871,720,015	153.4%
2Q	13,313,049,941	18,914,114,168	142.1%
9月	3,155,215,396	4,650,086,943	147.4%
10月	3,621,347,310	3,683,779,646	101.7%
11月	3,653,691,267	4,630,145,099	126.7%
3Q	10,430,253,973	12,964,011,688	124.3%
12月	5,265,185,837	6,399,366,884	82.3%
1月	5,352,145,474	4,870,607,736	109.9%
2月	3,269,611,362	4,734,577,520	69.1%
4Q	13,886,942,673	16,004,552,140	115.2%
通期	48,347,580,075	63,584,772,359	131.5%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

映画営業部門 月間興行収入の過去2年との比較（決算期）



映画興行部門 月間興行収入の過去2年との比較（決算期）



2024年2月期の公開予定作品（4月13日時点）

東宝(株)配給作品

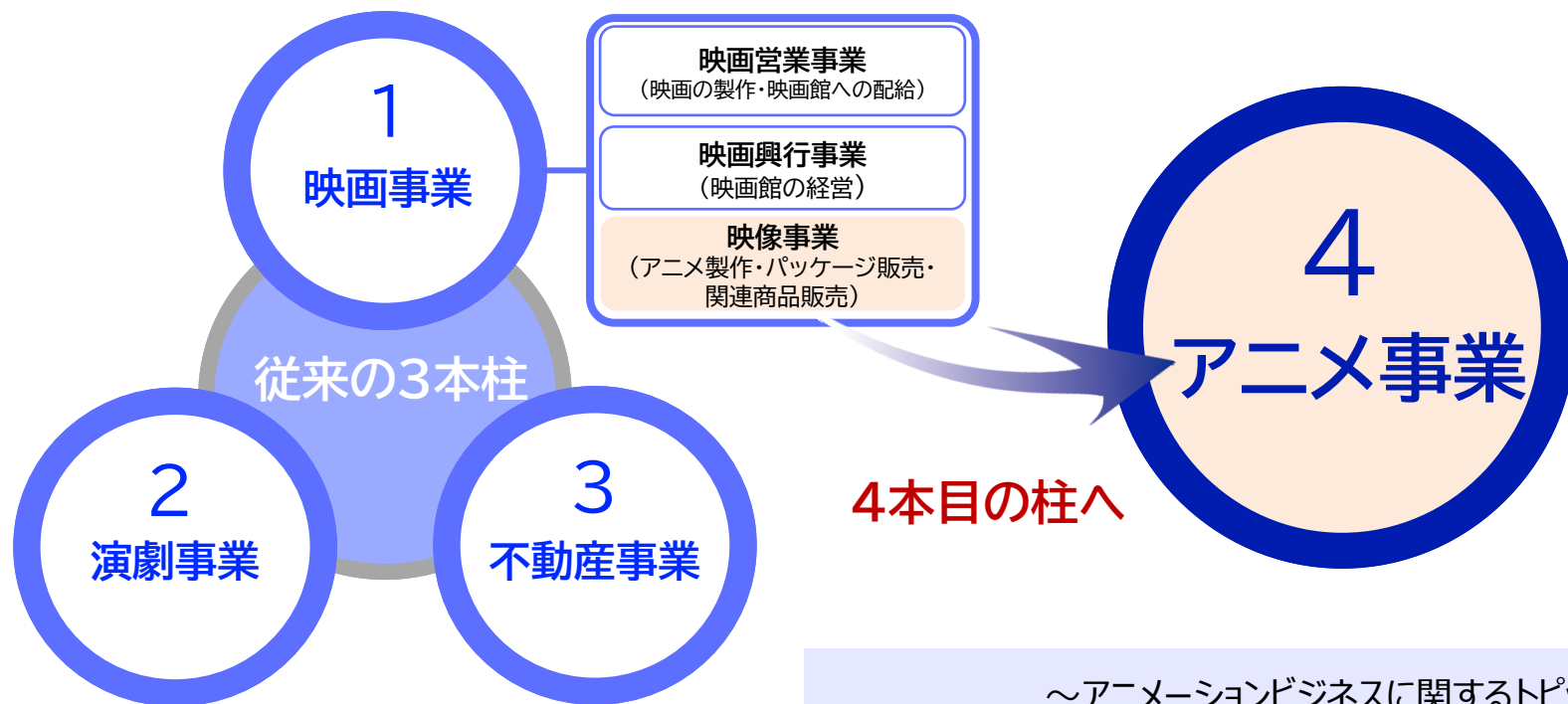
作品名	公開日
映画ドラえもん のび太と空の理想郷	3月3日
わたしの幸せな結婚	3月17日
映画刀剣乱舞-黎明-	3月31日
生きる LIVING	3月31日
名探偵コナン 黒鉄の魚影	4月14日
劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～」	4月28日
最後まで行く	5月19日
怪物	6月2日
劇場版「緊急取調室 THE FINAL」	6月16日
君たちはどう生きるか	7月14日
キングダム 運命の炎	7月28日
しん次元！クレヨンしんちゃんTHE MOVIE 超能力大決戦 ～とべとべ手巻き寿司～	8月4日
SAND LAND	8月18日
ミステリと言う勿れ	9月15日
沈黙の艦隊	9月29日
アナログ	秋
きみの色	秋
ゴジラ最新作（仮）	11月3日
窓ぎわのトットちゃん	冬
屋根裏のラジャー	冬
劇場版 SPY×FAMILY CODE: White	12月22日

東宝東和(株)等配給作品

作品名	公開日
フェイブルマンズ	3月3日
長ぐつをはいたネコと9つの命	3月17日
ダンジョンズ＆ドラゴンズ／アウトローたちの誇り	3月31日
ノック 終末の訪問者	4月7日
ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	4月28日
ワイルド・スピード／ファイヤーブースト	5月19日
M3GAN／ミーガン	6月9日
ミッション：インポッシブル／デッドレコニング PART ONE	7月21日
ミュータント・タートルズ：ミュータント・パニック！	8月25日
トランスフォーマー／ビースト覚醒	夏

当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、そのアニメ事業を「第4の柱」とすべく、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図っております。

事業ポートフォリオの方向性 ～事業の3本柱から4本柱へ～



～アニメーションビジネスに関するトピックス～

- 『BLUE GIANT』が音楽ファンからも高い評価を得て、スマッシュヒット
- ゲーム「呪術廻戦 ファントムパレード」を2023年内に、リリース予定
- 12月22日『劇場版 SPY×FAMILY CODE: White』公開決定
- 「葬送のフリーレン」「薬屋のひとりごと」2023年TVアニメ放送決定
- 「怪獣8号」2024年TVアニメ放送決定

2023年2月期 アニメ事業 ソース別営業収入及び国内外構成比

◆本表の対象範囲は、TOHO animationレーベル及びこれに準ずる作品です。

	2022年2月期 通期	2023年2月期 通期	増減額	前期比	主な増減要因
配信	7,183	9,353	2,170	30.2%	・（＋）「SPY×FAMILY」が大きく貢献
キャラクターライセンス	8,166	6,282	▲ 1,884	-23.1%	・（＋）「僕のヒーローアカデミア」が貢献 ・（－）前期は「呪術廻戦」が好調
商品物販	4,010	2,529	▲ 1,481	-36.9%	・（＋）「刀剣乱舞」のキャラクターグッズが堅調 ・（－）前期は「呪術廻戦」が好調
パッケージ	7,949	2,603	▲ 5,346	-67.3%	・（－）前期は「ウマ娘 プリティーダービー Season2」が大ヒット
劇場公開	12,001	3,340	▲ 8,661	-72.2%	・（－）前期は『劇場版 呪術廻戦 0』『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション』が好調
配分金 その他	2,132	1,369	▲ 763	-35.8%	・（＋）「SPY×FAMILY」配分金が貢献 ・（－）「ウマ娘 プリティーダービー」配分金が減少
合計	41,442	25,476	▲ 15,966	-38.5%	

	2022年2月期 通期	2023年2月期 通期	増減額	前期比	当期の構成比
国内	35,573	16,612	▲ 18,961	-53.3%	65.2%
海外	5,869	8,864	2,995	51.0%	34.8%

※当資料は、アニメ事業に関する開示情報の充実性の観点から自主的に作成したものであり、他の決算資料における数値とは整合しない場合があります。

（単位：百万円）

映画『BLUE GIANT』



©2023 映画「BLUE GIANT」製作委員会 ©2013 石塚真一／小学館

大ヒット上映中「いま絶対に映画館で見るべき映画」

ジャズに魅了されテナーサックスを始めた仙台出身の青年・宮本大が世界一のジャズプレーヤーを目指す。

圧倒的な表現力で「音が聞こえてくる漫画」と評される石塚真一による同名漫画（累計発行部数1,100万部超え）を劇場版『名探偵コナン 黒鉄の魚影』の立川譲監督がアニメ映画化。

音楽と劇中の演奏を世界的ピアニストの上原ひろみが担当、声の出演は山田裕貴、間宮祥太朗、岡山天音。

公開直後から絶賛の声が後を絶たず「いま絶対に映画館で見るべき映画」として10億円を超える大ヒットを記録。ロングラン上映中。

TVアニメ「Dr.STONE NEW WORLD」第3期



©米スタジオ・Boichi／集英社・Dr.STONE製作委員会

2023年4月6日から
毎週木曜22:30～ TOKYO MX他にて分割 2クールで放送中！

原作は、週刊少年ジャンプで連載され「次にくるマンガ大賞2018」（コミックス部門2位）や「小学館漫画賞」（少年向け部門）を受賞し、コミックス全26巻の累計発行部数1,500万部突破の話題作「Dr.STONE」（原作：稲垣理一郎、作画：Boichi）。

2019年4月よりTVアニメ第1期「Dr.STONE」、2021年1月に第2期となる「Dr.STONE STONE WARS」が放送となり、2022年7月にはテレビスペシャル「Dr.STONE 龍水」が放送。

満を持して待望の第3期「Dr.STONE NEW WORLD」が2023年4月より放送開始となり、国内だけではなく海外でも多くのファンから支持されている。

TVアニメ「呪術廻戦」第2期



©芥見下々／集英社・呪術廻戦製作委員会

2023年7月6日から
毎週木曜23:56～MBS/TBS 系列全国28局にて放送開始

集英社「週刊少年ジャンプ」で連載中の、芥見下々による漫画作品「呪術廻戦」。

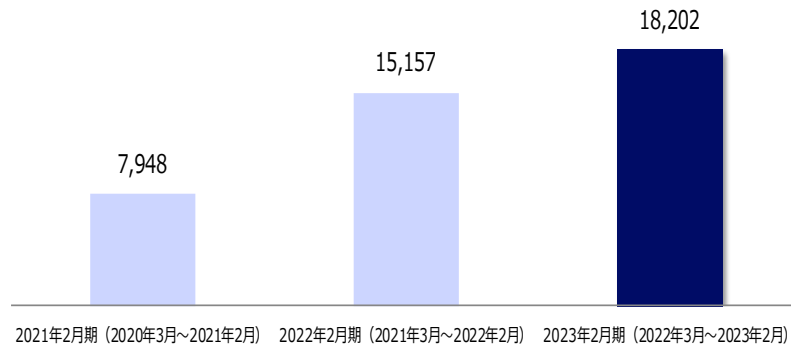
2018年3月から連載が開始され、人間の負の感情から生まれる呪いと、それを呪術で祓う呪術師との闘いを描き、既刊22巻にしてシリーズ累計発行部数は驚異の7,000万部を突破。

2020年10月から2021年3月までは毎日放送・TBS系列にてTVアニメ第1期が放送され、国内のみならず全世界で大きな反響を呼んだ。

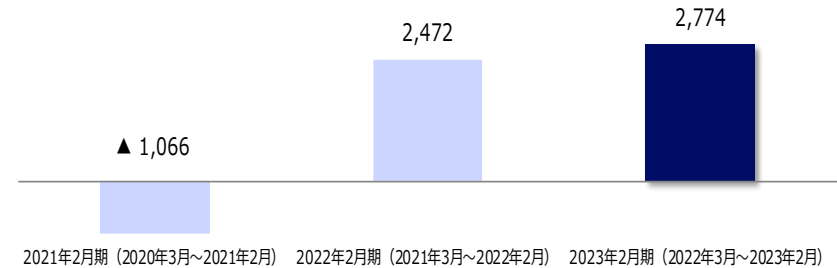
さらに、同年12月24日、第1期の前日譚にあたる物語が描かれる『劇場版 呪術廻戦 0』を上映し、全世界で一大ムーブメントを巻き起こした。

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。過去2年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

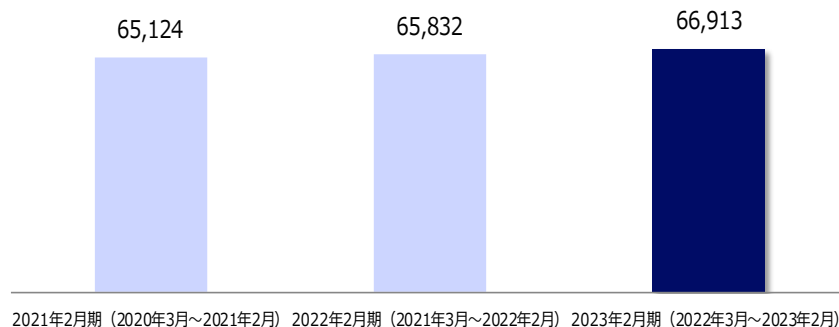
(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

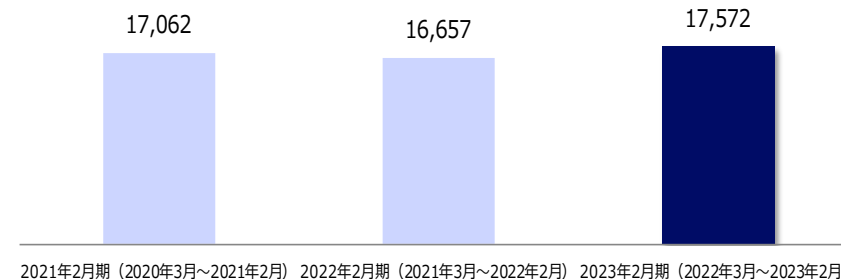
- 帝国劇場では、『ABC座 10th ANNIVERSARY ジャニーズ伝説 2022』(12月公演)、『JOHNNYS' World Next Stage』(1月公演)、初演となった『キングダム』(2月公演)が盛況。
シアタークリエでは、『海宝直人コンサート「ATTENTION PLEASE!」』(1月公演)、『ファースト・デート』(1月公演)、『CLUB SEVEN 20th Anniversary』(2月公演)等を上演。
日生劇場では、『ザ・ビューティフル・ゲーム』(1月公演)を上演。東急シアターオーブでは、『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』(12月公演)を上演。
- 東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で堅調に推移。
- 演劇事業全体としては、新型コロナの影響で一部公演中止となった演目が発生したものの、前年同期に比べ事業環境が改善し、ライブ配信等による新たな収益源の確保に努め、増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。過去2年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が引き続き低水準の空室率で推移し、減賃要請への対応も縮小しているが、わずかに減益。2023年2月に「東宝日比谷プロムナードビル」が竣工。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたことにより、収益認識に関する会計基準の適用の影響により、わずかに減収となるも増益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注獲得の取り組みやコスト削減に努め、増収増益

業績及び配当予想

■ 2024年2月期連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円. 銭
2024年2月期（予想）	253,000	40,000	43,000	28,000	159.44
(ご参考) 2023年2月期実績	244,295	44,880	47,815	33,430	190.37

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2024年2月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00
(ご参考) 2023年2月期実績	—	20.00	—	40.00	60.00

※2024年2月期の第2四半期末及び期末配当金の予想値につきましては、当社の利益配分に関する基本方針に基づきベース配当を記載しております。

本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 総務部 広報・IR室
Mail : pr_ir@toho.co.jp